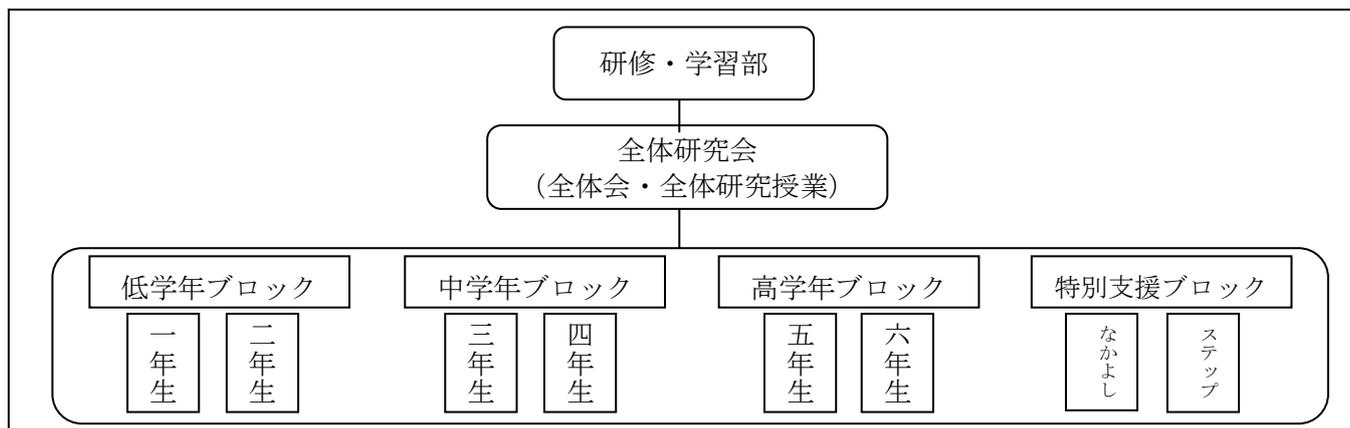


研究の進め方

(1) 研究組織



(2) ブロック研の所属

低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック	特別支援ブロック
1年 (笹山)・(丸山)	3年 (駒井)・(浦)	5年 (篠原)・(小林)	(森本)・(野口)・(加藤弥) 交流学級担任
2年 (松田)・(山田)	4年 (大森)・(加藤拓)	6年 (茶山)・(濱田)	
級外	級外 (平井)	級外 (濱谷)	

(3) 研究計画

① 授業研究について

- ・全教員が研究授業を行い、事前研究会・事後研究会を持つ。
- ・指導案は、3日前までに全員に配布する。
- ・全体研究授業は、3回（低中高ブロック1回ずつの授業）行い、事前研究会・事後研究会を全体会で行う。ブロック研究授業では、事前研究会・事後研究会をブロックで行う。
- ・学級担任は、国語科の研究授業を行う。その際、学年で同じ単元の研究授業を行ってもよい。ただし、本時の授業はもう一つの【思考力、判断力、表現力等】の評価の授業を行う。
- ・授業の導入、ふり返りで効果的な ICT 活用をした授業を行い、さらに意図的な ICT の活用方法を研修していく。
- ・研究授業は、全体研究授業とブロック研究授業1名は外部講師を招聘する。そのほかの授業者は積極的に外部講師を招聘する。
- ・特別支援ブロックの研究授業は、特支・通級・交流の先生が授業を参観する。
- ・研究授業後2週間以内に、授業のふり返りを書き、全教員に配布する。

全体研・ブロック研

	4月	5月 提案授業	6月	7月	9月	10月	11月	12月
低						笹山	松田・山田	
中				大森・加藤拓			駒井・浦	平井
高		小林・篠原			濱谷			茶山・濱田
特			加藤弥			野口		

② 拡大朝日ゼミ（現職教育）について

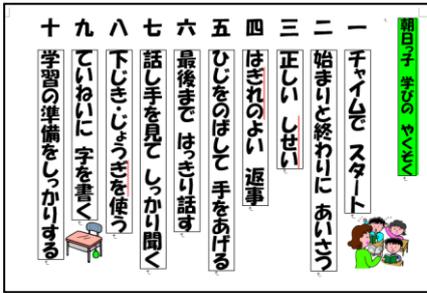
- ・教師の知識・技量の向上のための効果的な学習会を開催する。
- ・職員全員を対象とする。

③ 朝日ゼミ（若手教員早期育成プログラム）について

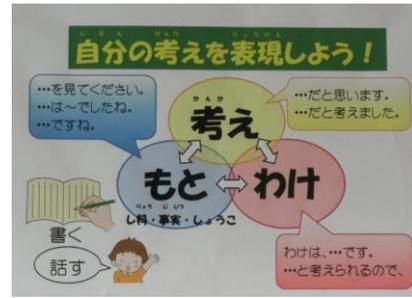
- ・若手教員育成のための学習会を開催する。
- ・若手教員早期育成プログラムⅠⅡⅢを対象とする。

(4) 学力・学習を支える基盤づくり

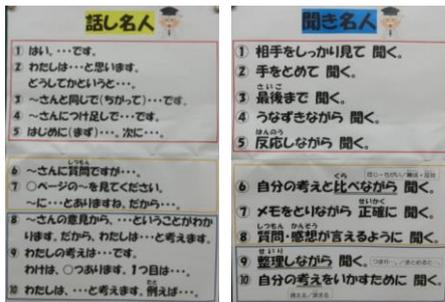
①学びの土台づくり



②考えの表現の仕方（話し方・書き）



③話し方・聞き方



④キャッチボール言葉の活用



⑤朝学習について

(i) 週予定

	月	火	水	木	金
1～3年	/	読み聞かせ	/	国語	/
4～6年		読書		算数	

(ii) 内容

朝読書指導 (毎週火曜日)

- 予鈴がなったら座席につき、1～3年生はボランティア（1年：毎週、2、3年：隔週）による読み聞かせ、4～6年生は図書館で借りた本で読書を始める。
- 4～6年生には、図書館司書による読み聞かせやブックトークが入ることもある。

国語 漢字・言葉の学習等（ドリル、市販のプリント、チャレンジシート）・視写・短文作り、ローマ字・アルファベットなど

算数 計算・図形等の学習（ドリル、市販のプリント、チャレンジシート）など

⑥家庭学習について（宿題＋自学ノート）

(i) 家庭学習のねらい

- 学校で学習したことを家庭でも意欲的に繰り返し学習することによって、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 自学ノートに取り組むことにより、自ら見つけた課題に自主的に取り組み、主体的な学習態度を育てる。
- 家庭で意欲的な学習習慣を身に付けさせる。
- PCを活用し、個に応じた学びをすすめていく。

(ii) 家庭学習のめあて

- 低学年 「机に向かって学習する習慣をつけよう」
- 中学年 「学校で学習したことをさらに深めよう」
- 高学年 「自分の学習の仕方を身に付けよう」

(iii) 家庭学習の取り組み方

- 自主学習を含めて宿題を毎日、(10×学年+10)分間 学習する。
- 勉強するときは、テレビを消し集中して取り組む。
- 定期的に「自学1週間プラン」を設け、自分で学習計画を立てて主体的に学習できる力を育てる。
- 家庭に「家庭学習の手引き」を配布し、協力を求めながら家庭学習習慣を身につける。